

2-2. 2007年度メンテナンス概要

岡峯 栄子（医療情報システム開発センター）

A. 看護観察編と看護行為編の整合性

（1）カテーテル、ドレーン類の表記の統一

看護観察編と看護行為編の項目の整合性に関して、特にカテーテルやドレーン類などの表記の統一について整理した。

看護観察編については、①「部位」と「その他」に表記されている項目に関して、定義の内容と実際の項目が統一されていないものがある。②同じ部位であるが、表記にゆれがある。③ドレーン／カテーテル類の項目の中で、「部位」と「その他」に入れる名称の傾向にばらつきがあり、統一されていないなどがあり、まずはこれらを整理した。

そのうえで、①看護行為編と看護行為編で名称が異なるもの、②看護観察編にあって看護行為編にないもの、③看護行為編にあって、看護観察編にないものを、検出し整理し、修正、新規追加を行った。

（2）「牽引」の整理

看護観察編の「牽引部位」と「牽引角度」は行為であるため、看護観察編から削除し、新たに看護行為編の A005（第1階層）「機器などの装着に伴うケア」の B031（第2階層）「その他の医療機器・医療用物品」の第3階層に「牽引中のケア」を追加し、第4

階層には「牽引状態の管理」と「体位・肢位の管理」を追加した。

B. 看護行為編 「安全ケア」の整理と「ME機器」の追加

医療事故、医療安全への意識の高まりから、アセスメント、マニュアルという用語を B006（第2階層）「安全ケア」の定義に追加した。

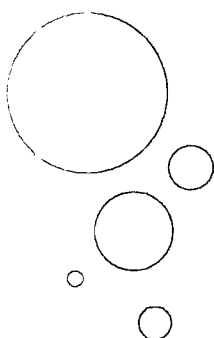
また、転倒転落防止や抑制についてのケアに関してより詳細に項目を追加した。具体的には、A001（第1階層）「日常生活ケア」の B006（第2階層）「安全ケア」の第4階層に、ベッド柵、安全ベルト、モニター類などを追加した。

これに伴い、A005（第1階層）「機器などの装着に伴うケア」の B030「ME機器」の C239「ME機器作動状態の確認」の第4階層に、安全ケアの第4階層に追加したモニター類と、その他必要な ME 機器類を追加した。

C. その他

その他として、看護観察編の「発疹」の整理。観察名称の「○○部位」+結果の「コメント」焦点、部位、位相、その他の内容を確認して修正した。

看護実践用語標準マスター 2007年度メンテナンス概要



財団法人 医療情報システム開発センター
標準化推進部 岡峯栄子

看護行為編と看護観察編の整合性

(1)カテーテルやドレーン類などの表記の統一

《看護観察編》

【部位の項目名称】…フィジカルアセスメントの部位、学術的に定義された部位、解剖学的部位名称。

ウインスロー孔	頸部	胆管	肝切離面
横隔膜下	後腹膜腔	胆管	頸部吻合部
下顎部	硬膜下	腸骨	
顎下部	硬膜外	脳室	「部位」の定義として適切か迷う項目
肝後区域	鎖骨下	脳槽	臍・空腸吻合部 or 臍空腸吻合部
肝床部	腎床部	脳表	胆管・空腸吻合部 or 胆管空腸吻合部
肝前区域	心嚢	皮下	
胸腔	臍管	腹腔	
胸骨下	ダグラス窩	モリソン窩	



「臍空腸吻合部ドレーン」 ⇒ 「臍・空腸吻合部ドレーン」
 「胆管空腸吻合部ドレーン」 ⇒ 「胆管・空腸吻合部ドレーン」
 「尿道カテーテル」 ⇒ 「尿道留置カテーテル」

看護行為編と看護観察編の整合性 (1)カテーテルやドレーン類などの表記の統一

《看護観察編》

【その他の項目名称】…皮膚症状としてどこでも起きる(临床上必要となる)部位を入れる
(創周囲、創部、腫脹部、切断断端部、発赤部、ストーマなど)。

イレウス管	脳室ドレーン	膀胱瘻	胸腔ドレーン
経鼻胃管	脳槽ドレーン	腎瘻	膿瘍腔
SBチューブ	脳表ドレーン	胃瘻	腭断端部
カテーテル挿入部	PTBD	腸瘻	
ドレーン挿入部	PTCD	創部	
尿道カテーテル	PTGBD	吻合部	

定義にあてはまる部位の名称、またはドレーンやカテーテルの名称そのものが含まれている



各ドレーンカテーテルに関してセット化する。
「量」「性状」「色調」「挿入長」を1セットとする。
「部位」、「位相」、「その他」に名称がない項目に関して名称を追加する。

看護行為編と看護観察編の整合性 (1)カテーテルやドレーン類などの表記の統一

《看護行為編》

修正したもの

「腭空腸吻合部ドレーン」 ⇒ 「腭・空腸吻合部ドレーン」
「胆管空腸吻合部ドレーン」 ⇒ 「胆管・空腸吻合部ドレーン」
「腭断端ドレーン」 ⇒ 「腭断端部ドレーン」

新規追加したもの

頸部吻合部ドレーン	皮下ドレーン
胸骨下ドレーン	腎瘻カテーテル
スワン・ガンツカテーテル	腸骨ドレーン
創部ドレーン	腸瘻カテーテル
脳表ドレーン	下顎部ドレーン
膀胱瘻カテーテル	SBチューブ
PTGBD	

看護行為編と看護観察編の整合性 (2)「牽引」の整理

《看護観察編》

「牽引部位」「牽引角度」は行為のため削除



《看護行為編》

新規追加

第3階層

「牽引中のケア」(定義)患者さんに装着している牽引器具が、期待される効果を常に発揮できるようにするケア

第4階層

「牽引状態の管理」(定義)牽引角度、重錘の重さ、ロープの状態、固定部位の皮膚の状態を管理すること。

「体位・肢位の管理」(定義)効果的で安楽な体位・肢位になるように管理すること。

看護行為編「安全ケア」の整理と「ME機器」の追加 (1)「安全ケア」

定義の修正

「安全ケア」

(定義)身体の危険をまねくような事故を予防するため、医療安全のマニュアルやガイドライン(アセスメントシート、アルゴリズムなどを含む)に基づいて、安全のための行動制限として実施するケア

第4階層に新規追加

低床ベッドへ交換

ナースコール機能の追加

監視用モニターカメラ観察

体動自動通知モニター観察

離床自動通知モニター観察

徘徊自動通知モニター観察

付きそい

ベッド柵機能強化

ベッド柵確認

安全ベルト(肩)装着

安全ベルト(手)装着

安全ベルト(体幹)装着

安全ベルト(足)装着

車椅子安全ベルト装着

第4階層から削除

「指導・教育」「オリエンテーション」の「安全のための行動制限」削除

看護行為編 「安全ケア」の整理と「ME機器」の追加 (2)「ME機器」

第4階層に新規追加

監視用モニターカメラ	Aライン加圧パック
体動自動通知モニター	電子血圧計
離床自動通知モニター	低圧持続吸引器
徘徊自動通知モニター	間欠的空気圧迫器
人工呼吸器	空気清浄機
除細動器	輸血加温器
自動体外式除細動器(AED)	超音波ネブライザー
心電図モニター	酸素tent
サチュレーションモニター	酸素流量計
輸液ポンプ	簡易体圧測定器
シリンジポンプ	体圧分散マットレス

2-3. 検索分類テーブルを用いた看護実践用語標準マスター（看護観察編）の構造検討

内山 真木子（聖路加国際病院）

要旨：

看護実践用語標準マスター（看護観察編）では、作成した用語を検索するにあたって、臨床からの経験知より8種類の観察タイプに分類した検索分類テーブルを作成した。今回検索分類の整合性や明確性の見直しを行なった。その結果分類項目の曖昧さや、分類項目と観察項目が一致しない箇所があり、大分類の定義を作成し、大分類にあわせた中分類の吟味・見直しをする必要があることがわかった。しかしこの分類見直し作業を通して、看護実践用語標準マスター（看護観察編）の構造化が可能ではないかとの示唆がえられた。今後、看護観察業務に必要とする知識の構造化に向けて検討を続けていきたい。

A. 目的

電子カルテ等で実際に利用する看護観察行為の具体的観察項目用語を標準化し、看護実践用語標準マスター（看護観察編）（以下マスターと略す）を作成した。この看護観察マスターは医療情報システム開発センター（MEDIS-DC）にて、2005年末から評価版として公開され、継続的にマスター項目の検討改善を行い2007年12月現在 Ver. 1.2版が公開利用されている。このマスターは「看護観察項目」以外に「観察結果」と「検索分類」の3群構造で1レコードが作られている。看護観察項目と観察結果については継続的に見直しを行ない、新規バージョンを公開してきた。現時点で、単純な誤りや、項目の不足、各データ内容修正等については、ほぼ収束したと考えられるため、次のステップとして、検索分類に関する分析を開始した。今回この検索分類テーブルの整合性や妥当性を明らかにするために、現状の観察項目に貼られている検索分類テーブルの項目の現状の分析を行なった。

B. 方法

検索分類テーブル（表）は、8種類の観察タイプからなる大分類と、個々の大分類の細項目としての中分類から構成されている。そして個々の看護観察項目には、分類項目毎の当該項目に該当する属性値（0:非該当, 1:〇〇に該当, 2:△△に該当・・・）が振られている。今回個々の観察項目と検索分類テーブル項目の各属性値を照らし合わせて、関連性の一致不一致の状態、曖昧性、不明確性等、問題点の洗い出しを行なった。

C. 結果

検索分類テーブル項目の各属性値と看護観察項目の分析を行なった結果、下記の問題点が明らかになった。

1) 中分類が大分類と関連していない項目
大分類の【2. IN TAKE】、および【3. OUT PUT】は体内への摂取および対外への排泄に係る量の観察項目を意味する項目である。【3. OUT PUT】の中項目に、排泄性状・排泄色調・排泄臭気等、量とは異なる分類が設定されていた。

2) 中分類の表現があいまいで、貼られた観察項目が大分類と一致していない項目
大分類の【4. 自覚症状・訴え】の【中項目；尿】の観察項目には、排尿困難・頻尿・尿性状など、排尿や尿性状に関する看護観察項目が挙がっていた。しかし観察項目の中に【尿量】も含まれていた。【尿量】は排泄量の観察であり、自覚症状や患者の訴えとしての観察項目として関連性が一致しない項目であった。

3) 看護観察マスターではなく、看護行為マスターとして再検討が必要な項目
大分類の【7. 特定対象】の【中項目；使用中の機器・材料】の観察項目には装具のずれや装具の圧迫等の観察項目が挙げられていた。これらの観察項目は観察するだけでなく、観察結果異常があった場合には、すぐにケア介入するケースが多く、観察項目とするより看護行為の意味合いが強い項目であった。

4) 観察項目の特性と貼られた検索項目の特性が一致しない項目
観察項目の【起立性低血圧】には、【1. バイタルサイン；バイタルサイン】、【4. 症状・訴え；活動】、【5. 系統・機能別観察；循環】が貼られていた。活動が貼られている主な項目は、関節稼動域・徘徊や気力低下等、関節等の身体可動や身体・精神の運動活動に関連する観察項目が含まれており、起立性低血圧はグループの特性から外れているラベルであった。

D. 考察

当初看護観察マスターに検索分類を貼る場合に、大分類の言葉からの曖昧なイメージから、該当する項目を判断し分類項目を付けていた。曖昧なイメージは、検索分類を

つける作業をするスタッフにより判断が異なり、また個々の分類項目の枠組みが不明確なため、上記問題点が発生したと考える。個々の大項目の定義を明らかにし、その定義にそって中項目の見直しを行い検索分類テーブルを再構築する必要があると考える。当初必要な看護観察マスターを容易に見つける手段として、検索分類テーブルを作成したわけだが、検索分類テーブルを再度分析・吟味し、グループを整理しその定義を明確にする作業は、看護観察マスターの構造化の検討につながると考える。

E. 結果

今回の研究により、現在の検索分類テーブルには問題点があり、今後改善する必要があることがわかった。この研究を継続し、よりよい看護観察マスターの構造化をすすめていきたい。

表 検索分類テーブル

大類	中類	大類	中類	大類	中類
1 バイタル	0 観察し	4 自覚症状	0 観察し	5 透析	0 観察し
	1 バイタル		1 疼痛	機能観察	10 観察
2 N RC	0 観察し		2 睡眠		20 観察
	1 観察		3 活動		30 排泄
	2 観察観察		4 観察		40 消化呼吸
	3 観察		5 尿		50 循環
	4 観察		6 便		60 活動
	5 観察		7 出血		70 神経系
3 QT RT	0 観察し		8 嘔吐		80 頭部
	1 尿		9 浮腫		90 腹部
	2 便		10 発赤		100 腹部
	3 出血		11 腫脹		110 肢
	4 嘔吐		12 硬結		120 皮膚爪
	5 排便		13 熱感	6 精神心理	0 観察し
	6 排便		14 寒感	行動	1 精神心理
	7 排便		15 発汗	7 特定対象	0 観察し
	8 排便		16 痛感		1 周期
	9 排便		17 倦怠		20 尿量尿色
	10 観察		18 観察		30 意識
					40 呼吸機能
				8 観察	0 観察し
					1 観察

2-4. 看護観察編の部位、位相に関する他の標準マスター等との比較検討

高田 礼（医療情報システム開発センター）

A. はじめに

看護実践用語標準マスター（以下、看護マスター）は、平成17年度（2005年）から看護観察編と看護行為編を、当財団のホームページ上で公開している。看護観察編については、評価版の公開から3回のリリースを経て、現在 Ver.1.2 を公開している。当初みられた用語の齟齬や意味内容が不適当であった等の諸問題は、メンテナンス作業班による検討を重ねることによって、ある程度の収束がはかられたと考えられた。次の段階として、標準化された看護用語を臨床看護実践の知識と統合させ、看護アセスメントやケアのアウトカム評価につながるようなマスター構造へ展開していく方向が望まれる。そこで、観察編の項目名称と、マスター構造の核となるフィールドの「検索大分類テーブル」、「焦点」、「部位」等について関連性を検証し、整理する必要があると考えた。まずは、看護マスターが観察編の「部位」、「位相」の用語について、症状所見マスター、画像診断マスター、検査マスター、病名マスターの各標準マスター、有害事象共通用語規準 v3.0 日本語訳 JCOG/JSCO 版 - 2004年10月27日（以下、有害事象用語）との比較を行ったので報告する。

B. 要旨

看護マスター<観察編>の「部位」と「位相」のフィールドに用いている用語をあらわし、それぞれがユニークな用語となるよう整理した。症状所見マスター、画像診断マスター、検査マスター、病名マスターの各標準マスター、有害事象用語の「部位」

に関連した用語についても同様の操作を行った。そして、看護マスター<観察編>の部位と位相のフィールドに用いている用語とどの程度マッチングしているかを調べた。

「部位」に関する用語131項目に対して、上記4つの標準マスターいずれかと一致したものは約70%（91項目）であり、2つ以上の標準マスターと一致したものは約41%（54項目）であった。最も一致した用語が多かったのは病名マスターで、83項目であった。有害事象用語の疼痛カテゴリーに限定して、項目の一致をみたものは16%（21項目）であった。

「位相」に関する用語20項目に対して、上記4つの標準マスターのうち一致したのは病名マスターのみであり、35%（7項目）であった。

C. 今後の展開

看護用語の中で看護ケアに必要な部位の用語は、基本的なフィジカルアセスメントを行う際の体表面に関するものと、領域別の専門的な医学的用語に関するものの大きく2つに分けられることが見込める。現在は2次元的なマスター構造となっているが、「部位」、「位相」をコア構造として各々テーブルにし、「検索分類テーブル」や「焦点」等と複合的に関連させて、より精密で知識構造化されたマスターへ発展させることができると考えられる。そのためにも、「部位」、「位相」で用いられている項目の妥当性や他のフィールドとの関連性について詳細に整理していく必要がある。今後は、高度専門看護実践領域の用語とも検証し、「部位」や「位相」について階層構造をもたすこと

が可能であるか、「検索分類テーブル」や「焦点」等とどのように関連づけていくことが

できるか、作業班を中心に検討を進めていく予定である。

※灰色の塗りつぶしは、項目が一致しなかったことを表す。
 ※太字の項目は、2つ以上の標準マスターに一致したものを表す。
 * "頭皮"は、標準マスターとは一致しなかったが、有言華象用語では一致した。

骨題マスター		症状新記マスター						骨題新記マスター		有言華象用語	
部位	位相	リンパ節位置用語	分類1	分類2	分類3	分類4	分類5	分類6	骨題新記マスター	有言華象用語	
全身									全身		
体幹									体幹		
関節									関節		
皮膚									皮膚	皮膚	
皮下									皮下		
粘膜									血管		
血管									血管		
頭部									頭部	頭部	
後頭部		後頭部		後頭部					後頭部		
脳室									脳室		
脳槽									脳槽		
脳索											
硬膜下											
硬膜外											
頭皮*										頭皮	
顔面		顔面							顔面	顔面	
前額部									前額部		
顔面神経									顔面神経		
舌咽神経									舌咽神経		
耳下腺									耳下腺	耳下腺	
顔面粉											
口腔									口腔	口腔	
口腔粘膜									口腔粘膜		
口腔粘膜下									口腔粘膜下		
口唇									口唇	口唇	
嚙肉									嚙肉	嚙肉	
舌									舌	舌	
口鼻											
鼻									鼻	鼻	
鼻部									鼻部		
鼻腔									鼻腔		
眼									眼	眼	
眼瞼									眼瞼		
上眼瞼									上眼瞼		
眼瞼結膜											
眼瞼結膜下											
眼瞼結膜											
眼輪筋									眼輪筋		
角膜									角膜		
耳									耳		

2-5. 有害事象共通用語基準 v3.0 日本語訳 JCOG/JSCO 版 (2004.10.27) と看護実践用語標準マスター (看護観察編) の関連性を探る試み

渡邊 千登世 (さいたま市立病院) 水流 聡子 (東京大学大学院)
内山 真木子 (聖路加国際病院) 段ノ上 秀雄 (東京大学大学院)
岡峯 栄子 (医療情報システム開発センター)
高田 礼 (医療情報システム開発センター)

「MEDIS 看護実践用語標準マスター管理 ワーキンググループ」では、有害事象共通用語基準 v3.0 日本語訳 JCOG/JSCO 版 (2004.10.27) と看護実践用語標準マスター (看護観察編) の関連性を探る試みを行いました。

有害事象共通用語規準 v3.0 (日本癌治療学会 : <http://jsco.umin.ac.jp/info/CTCAE.html>)

Common Terminology Criteria for Adverse Events v3.0 (CTCAE)

日本語訳 JCOG/JSCO 版の公開について

本学会では、平成14年以降、有害事象の判定規準として、Revised National Cancer Institute - Common Toxicity Criteria (NCI-CTC) ver.2を採用することとし、また、その日本語訳として、JCOG版第2版を採用してきました。その後、NCIにおいて、NCI-CTC ver.2が Common Terminology Criteria for Adverse Events v3.0(CTCAE)として再改訂され、本学会にも意見が求められました。そこで、本学会の担当委員会：癌治療効果判定規準作成委員会において検討を行い、いくつかの点について NCI に修正を申し入れたところ、平成15年6月、本学会からの意見も一部盛り込んだ改訂案が取りまとめられ、NCIのホームページに掲載されました (<http://ctep.cancer.gov/reporting/ctc.html>)。

その日本語訳については、本学会と JCOG が共同で作成することが合意され、まず JCOG で翻訳作業に入り、JCOG における取りまとめを終えた段階で、本学会の癌治療効果判定規準作成委員会及び評議員により検討を行いました。その結果、若干の修正が加えられ、Common Terminology Criteria for Adverse Events v3.0 (CTCAE) 日本語訳 JCOG/JSCO 版として JCOG ホームページに掲載される運びとなりました (http://www.jcog.jp/SHIRYOU/fra_ma_guidetop.htm)。さらに、まもなく本学会機関誌 International Journal of Clinical Oncology (IJCO) 誌の supplement として刊行され、会員に配布される予定です。

会員各位には、本学会機関誌及び JCOG ホームページをご参照いただき、今後、有害事象の判定に際しては、Common Terminology Criteria for Adverse Events v3.0 (CTCAE) 日本語訳 JCOG/JSCO 版に準拠いただきますよう、ご高配のほどお願い申し上げます。

平成16年11月15日

日本癌治療学会 理事長 北島 政樹
癌治療効果判定基準作成委員会 委員長 大野 竜三

看護実践用語標準マスター（看護観察編）にない有害事象共通用語

アレルギー／免疫	アレルギー反応／過敏症(薬剤熱を含む) 自己免疫反応 血清病 血管炎 アレルギー／免疫・その他	アレルギー反応 自己免疫反応 血清病 血管炎 アレルギー・その他
聴覚器／耳	外耳炎(非感染性) 中耳炎(非感染性)	外耳炎(非感染性) 中耳炎(非感染性)
血液／骨髄	骨髄細胞密度 CD4陽性細胞数 ハプトグロビン ヘモグロビン 溶血 鉄過剰 白血球 リンパ球減少 骨髄異形成 好中球／顆粒球(ANC／AGC) 血小板 脾機能 血液／骨髄・その他	骨髄細胞密度 CD4陽性細胞数 ハプトグロビン ヘモグロビン 溶血 鉄過剰 白血球 リンパ球減少 骨髄異形成 好中球／顆粒球(ANC／AGC) 血小板 脾機能 血液・その他
不整脈	伝導異常／房室ブロック・選択 QTc延長	伝導異常・選択 QTc延長
心臓全般	心臓虚血／心筋梗塞 心筋トロポニンI 心筋トロポニンT 原因不明の心肺停止(非致命的) 高血圧 低血圧 左室拡張機能不全 左室収縮機能不全 心筋炎 心嚢液／心膜液(非悪性) 心膜炎 肺高血圧症 拘束型心筋症 右室機能不全(肺性心) 心弁膜疾患 心臓全般・その他	心臓虚血／心筋梗塞 トロポニンI トロポニンT 原因不明の心肺停止(非致命的) 高血圧 低血圧 左室拡張機能不全 左室収縮機能不全 心筋炎 心膜液(非悪性) 心膜炎 肺高血圧症 拘束型心筋症 右室機能不全(肺性心) 心弁膜疾患 心臓全般・その他
凝固	DIC(播種性血管内凝固症候群) フィブリノゲン INR(国際標準化プロトロンビン時間比) PTT(部分トロンボプラスチン時間) 血栓性微小血管障害(例:血栓性血小板減少性紫斑症[TTP]または溶血性尿毒症症候群) 凝固－その他	DIC フィブリノゲン INR PTT 血栓性微小血管障害 凝固－その他
全身症状	全身症状－その他	全身症状－その他
死亡	CTCAE用語に該当しない死亡－選択	CTCAE用語に該当しない死亡－選択
皮膚科／皮膚	皮下脂肪萎縮 口唇炎 色素脱失 注射部位の反応／血管外漏出 光過敏症 皮疹:ざ瘡／ざ瘡様 皮疹:放射線に伴う皮膚炎－選択: －化学放射線 －放射線 皮疹:手足の皮膚反応 皮膚欠損／褥瘡性潰瘍 皮膚線条 毛細血管拡張症 蕁麻疹(蕁麻疹、みみず腫れ、膨疹) 創傷合併症－非感染性 皮膚科／皮膚－その他	皮下脂肪萎縮 口唇炎 色素脱失 注射部位の反応 光過敏症 ざ瘡 放射線皮膚炎－選択 手足の皮膚反応 褥瘡 皮膚線条 毛細血管拡張症 蕁麻疹 創傷合併症－非感染性 皮膚－その他
内分泌	副腎機能不全 女性化 男性化	副腎機能不全 女性化 男性化

消化管	神経内分泌: ACTH欠乏 神経内分泌: ACTH分泌異常(例: SIADHまたはADH低値) 神経内分泌: ゴナドトロピン分泌異常 神経内分泌: 成長ホルモン分泌異常 神経内分泌: プロラクチンホルモン分泌異常 膵内分泌: 耐糖能異常 副甲状腺機能低下 甲状腺機能亢進(甲状腺中毒症) 甲状腺機能低下 内分泌-その他	ACTH ADH ゴナドトロピン 成長ホルモン プロラクチン 糖尿病 副甲状腺機能低下 甲状腺機能亢進 甲状腺機能低下 内分泌-その他
	大腸炎 歯科: 義歯またはプロテーゼ 歯科: 歯周(歯根膜)疾患 歯科: 歯周(歯根膜)疾患 歯科: 歯の発達 小腸炎(小腸の炎症) 食道炎 消化管瘻-選択 -腹部-細分類不能 -肛門 -胆管 -結腸/盲腸/虫垂 -十二指腸 -食道 -胆嚢 -回腸 -空腸 -口腔 -膵 -咽頭 -直腸 -唾液腺 -小腸-細分類不能 -胃 鼓腸放屁 胃炎(胆汁逆流性胃炎を含む) 胸やけ/消化不良 消化管イレウス(腸管の機能的閉塞/神経性便秘) 消化管リーク(吻合部を含む)-選択 吸収不良 悪心 消化管壊死-選択 -肛門 -結腸/盲腸/虫垂 -食道 -胆嚢 -肝 -回腸 -空腸 -口腔 -膵 -腹腔 -咽頭 -直腸 -小腸-細分類不能 -人工肛門 -胃 消化管閉塞-選択 -盲腸 -結腸 -十二指腸 -食道 -胆嚢 -回腸	大腸炎 義歯 歯周 歯 歯の発達 小腸炎 食道炎 消化管瘻-選択 鼓腸放屁 胃炎 胸やけ 麻痺性イレウス 消化管リーク-選択 吸収不良 悪心 消化管壊死-選択 消化管閉塞-選択

